

日本の主要飲料メーカー4社の生成 AI への取り組み

Gemini Deep Research

概要

近年、生成 AI (Generative AI) は、ビジネスにおける業務効率化や新たな価値創造を促進する技術として注目を集めています。特に、労働人口減少や少子高齢化が進む日本では、生成 AI の活用による生産性向上が喫緊の課題となっています。本稿では、日本の主要飲料メーカーであるサッポロホールディングス、キリンホールディングス、アサヒグループホールディングス、サントリーホールディングスの生成 AI への取り組みを比較検討し、各社の戦略、強み、今後の展望について考察します。

各社の生成 AI 活用状況

サッポロホールディングス

サッポロホールディングスは、「全社員 DX 人財化」を掲げ、2022 年から全社員約 6,000 名を対象に DX 研修を実施してきました。生成 AI の活用においては、以下の 3 つの取り組みが挙げられます。

1. 生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick (サッポロ相棒)」の導入¹
 - Amazon Web Services 社が提供する生成 AI サービス「Bedrock」を利用し、独自の生成 AI ツールを構築。
 - 文章ベースでの会話機能、画像生成機能に加え、社内データとの連携による独自のアルゴリズムによる社内情報を踏まえた回答生成が可能。
 - 業務品質や生産性の向上、業務プロセスの改善を目指し、全社員への導入を推進。
2. 生成 AI に特化した研修の実施²
 - 株式会社アイデミーの支援を得て、生成 AI に特化した研修を実施。
 - 生成 AI の知識習得に加え、「SAPPORO AI-Stick」を使ったハンズオンコンテンツを取り入れ、従業員の生成 AI 活用スキル向上を図る。
3. 生成 AI ツール「exaBase 生成 AI」の試験導入³
 - 企画・管理系部門を中心とした約 700 名を対象に、exaBase 生成 AI を試験導入。
 - 稟議文書の作成や校正など、日常業務の効率化を目指し、年間約 10,000 時間の工数削減効果を見込む。

これらの取り組みから、サッポロホールディングスは、生成 AI を全社的に活用し、業務効率化と DX 推進を加速させていることが分かります。

キリンホールディングス

キリンホールディングスは、業務特化型生成 AI の活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を開始しました。⁴

- 「KIRIN BuddyAI for Marketing」の導入⁵
 - マーケティング領域に従事する約 400 名を対象に、業務特化型生成 AI「KIRIN BuddyAI for Marketing」を先行導入。
 - 社内環境で構築した生成 AI に、マーケティング領域に特化したプロンプトテンプレートを実装。
 - コンセプト開発、ネーミング・ワーディング支援、調査設計、商談資料構成案作成、各種文章案作成などを支援。
 - 年間約 2 万 9,000 時間以上の時間創出を見込む。
- 全社展開
 - 今後は、営業部門や R&D 部門などに順次拡大し、2025 年末までに国内全従業員約 1 万 5,000 人への展開を目指す。
- AI 面接官の導入⁶
 - 新卒採用において、AI 面接官を本格導入。
 - 多様性を重視した採用活動の強化、公平な選考プロセスの実現を目指している。

キリンホールディングスは、業務特化型生成 AI と AI 面接官の導入により、各部門の業務効率化と採用活動の質向上を図り、従業員がより付加価値の高い業務に専念できる環境を構築しようとしています。

アサヒグループホールディングス

アサヒグループホールディングスは、生成 AI の活用を積極的に推進しており、以下の取り組みが注目されます。

1. 「ジェネレーティブ AI 「やって TRY」プロジェクト」の発足⁷
 - 約 100 名の社員が参加し、生成 AI 関連の商用サービスを用いて社内業務への有効な適用や効果創出の可能性を評価。
 - アイデア創出・整理、情報整理、コンテンツ作成など、様々な業務における生成 AI の活用を検証。
 - 潜在ニーズの掘り起こしに向けた高度データサイエンス・イノベーションに関する取り組みも開始。
 - 顧客満足度向上を目指している。⁷
2. 社内情報検索システムへの生成 AI 導入⁸
 - Microsoft Azure OpenAI Service を活用し、社内情報検索システムに生成 AI を導入。
 - 研究所を中心に試験運用を開始し、将来的にはアサヒグループ全体に展開予定。
 - PDF、PowerPoint、Word など、様々な形式の資料データに対して、ファイル名だけでなく、ファイル内の文章や画像を含めて複合的な検索が可能。
 - Azure OpenAI Service によって生成された要約を表示することで、資料データの確認を容易にする。
3. AI を使ったパッケージデザインシステムの開発⁹
 - 世界初の AI を使ったパッケージデザインシステムを開発。
 - 当初 30 個あったアイデアから実現可能性の高い 4 つに絞り込み、そのうちの 1 つの「商品パッケージ自動生成の AI」はプレスリリースを発信。

- 社内での活用を通してイノベーションを起こし、将来的には商品を発売し世の中に驚きを与えることを目指す。
4. **AI 技術を駆使した新たな価格戦略**¹⁰
- 株式会社エコノミクスデザインと業務提携を結び、AI 技術を駆使した新たな価格戦略を展開。
 - ノーベル経済学賞の理論を応用した「BDM」を用いた価格戦略により、消費者の行動を予測し、最適な価格設定を行う。

アサヒグループホールディングスは、生成 AI を様々な業務に適用することで、業務効率化、新価値創出、顧客満足度向上を目指しています。

サントリーホールディングス

サントリーホールディングスは、生成 AI の活用に関して、以下の取り組みを行っています。

1. 「サントリーグループ AI 基本方針」の策定¹¹
 - AI の倫理的な側面を重視し、グループ全体で共有し遵守するための基本方針を策定。
 - 「人権の尊重」「公平性の確保」「プライバシーの保護」「説明責任と透明性の確保」「安全性の確保」「アカウントビリティの確保」の 6 つの項目を柱とする。
2. 社内向け ChatGPT 「ガウディ」の開発・展開¹²
 - 国内従業員約 19,000 名を対象に、独自の ChatGPT 「ガウディ」を導入。
 - 多くの社員が業務での利用を進めている。
3. 生成 AI 活用研修の実施¹²
 - グループ会社社員向けに、生成 AI の特性と業務での具体的な活用方法を紹介するオンラインイベントを実施。
 - イベント後、「ガウディ」の 1 日あたりの利用者数が 2 倍に増加。
4. AI 学習・運用サービス企業への出資¹³
 - AI のパフォーマンスを高めるための AI 学習・運用サービスを開発・提供する株式会社 Citadel AI に資本参加。
 - AI 技術の活用を強化し、R&D や SCM などの分野でさらなる効率化を目指す。
5. AI 関連製品・サービス開発企業との提携¹⁴
 - AI 関連製品・サービスを開発・提供する株式会社シナモンへの資本参加。
 - DX (Digital Transformation) とオープンイノベーションの推進を図る。

サントリーホールディングスは、AI 基本方針に基づき、倫理的な側面に配慮しながら、生成 AI の活用を推進しています。

各社の強みと今後の展望

| 会社名 | 強み | 今後の展望 |
|-----------------|--|----------------------------|
| サッポロホールディングス | 全社員への生成 AI ツール導入と研修による、生成 AI 活用基盤の構築 | 特定部門領域に特化した事例の創出と業務プロセス変革 |
| キリンホールディングス | 業務特化型生成 AI と AI 面接官の導入による、業務効率化と採用活動の質向上 | 営業、R&D など、他部門への生成 AI 導入拡大 |
| アサヒグループホールディングス | 生成 AI の多様な業務への適用、AI を使ったパッケージデザインシステムの開発 | 潜在ニーズの掘り起こしや顧客満足度向上、新価値創造 |
| サントリーホールディングス | AI 倫理を重視した生成 AI 活用、AI 関連企業への投資と提携 | 生成 AI 活用研修の充実、グループ全体への活用促進 |

生成 AI 技術の進歩が各社の事業に与える影響

生成 AI 技術の進歩は、飲料メーカーの事業に以下の影響を与える可能性があります。

- **商品開発:** 消費者の嗜好やトレンドを分析し、新商品開発に活用。例えば、AI を活用して新たなフレーバーを開発したり、既存商品の改良に役立てたりすることが可能になる。¹⁵
- **マーケティング:** 広告クリエイティブの制作、ターゲットに合わせた広告配信。例えば、AI が自動的に広告コピーを生成したり、効果的な広告配信戦略を提案したりすることで、マーケティング活動を効率化できる。¹⁶
- **顧客サービス:** 顧客からの問い合わせ対応の自動化、パーソナライズされた顧客体験の提供。例えば、AI チャットボットを導入することで、24 時間 365 日顧客対応が可能になり、顧客満足度向上に繋がる。¹⁵
- **サプライチェーンマネジメント:** 需要予測、在庫管理、物流の最適化。例えば、AI が過去の販売データや気象情報などを分析することで、需要を正確に予測し、在庫切れや過剰在庫を防ぐことができる。¹⁷
- **研究開発:** 新素材の探索、製造プロセスの効率化。例えば、AI を活用して膨大な量の研究データから有益な情報を見つけ出し、新素材の開発を加速させることができる。¹⁸

生成 AI は、これらの領域において、業務効率化、コスト削減、顧客満足度向上に貢献すると期待されます。

しかし、同時に、データプライバシー concerns、AI アルゴリズムにおけるバイアス、責任ある AI ガバナンスの必要性など、潜在的な課題やリスクも存在します。¹⁹

Societal Impact of AI Initiatives

主要飲料メーカー4社の生成AIへの取り組みは、社会全体に対しても以下の影響を与える可能性があります。

- **AI活用の促進:** 飲料メーカーのような大手企業が生成AIを積極的に活用することで、他業界への波及効果が期待される。AI活用の成功事例が共有されることで、AI導入を検討する企業が増え、社会全体のAI活用が促進される可能性がある。
- **雇用への影響:** 生成AIによる業務自動化は、一部の職種において雇用を減少させる可能性がある一方、AI関連の新たな雇用を創出する可能性もある。AI技術の進化に伴い、AIの開発、運用、保守などを担う人材の需要が高まると予想される。
- **倫理的な課題:** 生成AIの利用に伴うプライバシー、公平性、透明性などの倫理的な課題への対応が求められる。AIが生成した情報が倫理的に問題ないか、差別や偏見を助長するものではないかなど、AI倫理に関する議論が活発化すると考えられる。
- **消費者行動の変化:** 生成AIを活用したパーソナライズされたサービスや商品の提供により、消費者の購買行動が変化する可能性がある。消費者は、AIによって自分に最適な商品やサービスを提案されることで、より効率的な購買体験を得られるようになる。

飲料メーカーは、これらの影響を考慮し、責任あるAI活用を推進していく必要があります。

結論

日本の主要飲料メーカー4社は、それぞれ独自の戦略に基づき、生成AIの活用を推進しています。サッポロホールディングスは全社員への生成AIツール導入と研修に注力し、キリンホールディングスは業務特化型AIとAI面接官を導入することで業務効率化を図っています。アサヒグループホールディングスは生成AIを多様な業務に適用し、AIを使ったパッケージデザインシステムを開発するなど、新価値創造に力を入れています。サントリーホールディングスはAI倫理を重視した生成AI活用を進めるとともに、AI関連企業への投資と提携を通じてAI技術の向上を図っています。

While the four companies exhibit different focuses in their AI strategies, they all recognize the transformative potential of generative AI in enhancing business operations and creating new value.

生成AIは、業務効率化、新価値創造、顧客満足度向上など、様々なメリットをもたらす可能性を秘めています。今後、生成AI技術がさらに進歩し、社会への浸透が加速する中で、飲料メーカーは、AIの倫理的な側面にも配慮しながら、その活用を推進していくことが重要となります。飲料業界における生成AIの活用は、まだ始まったばかりです。今後、各社がどのように生成AIを活用し、新たなイノベーションを生み出していくのか、注目が集まります。

引用文献

1. サッポログループ独自の生成AIツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | 新着情報, 3月11, 2025 にアクセス、<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=9408>
2. 生成AIツール「SAPPORO AI-Stick “サッポロ相棒”」を全社員 6000 人に導入 | IT Leaders, 3月11, 2025 にアクセス、<https://it.impress.co.jp/articles/-/27431>

3. サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始|新着情報, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=9220>
4. キリンHD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 - ミクス Online, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.mixonline.jp/tabid55.html?artid=77502>
5. キリン、生成 AI をマーケティング領域で導入し順次国内従業員約 1 万 5,000 人へと展開 | IoT NEWS, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://iotnews.jp/ai/258650/>
6. キリンホールディングス、AI 面接官を本格導入決定 - VARIETAS, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://varietas.co.jp/news/5jK6f9pu>
7. 『ジェネレーティブ AI 「やって TRY」プロジェクト』を発足。生成 AI の試行を通して同技術に関する利活用の知見獲得を目指す | ニュースルーム - アサヒグループホールディングス, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.asahigroup-holdings.com/newsroom/detail/20230516-0103.html>
8. 生成 AI を用いた社内情報検索システムを導入 - アサヒビール, 3月 11, 2025 にアクセス、 https://www.asahibeer.co.jp/news/2023/0727_2.html
9. 世界初の AI を使ったパッケージデザインシステムの開発を推進 - サーキュレーション, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://circu.co.jp/pro-sharing/cases/asahigroup-holdings/>
10. アサヒグループ、AI 活用で価格戦略刷新。戦略的プライシング分析を開始 - AI Market, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://ai-market.jp/news/asahi-pricing/>
11. 「サントリーグループ AI 基本方針」を策定 - ニュースリリース, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.suntory.co.jp/news/article/14729.html>
12. GAI コンサルティング - MANA (マナ) , 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://gomana.ai/service/gai-consulting/>
13. 株式会社 Citadel AI へ資本参加 - サントリー, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.suntory.co.jp/news/article/14121.html>
14. DX の取り組み強化 人工知能スタートアップ「株式会社シナモン」へ資本参加 - サントリー, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.suntory.co.jp/news/article/13982.html>
15. AI in the Food Industry: Benefits, Challenges and Uses - Enatega, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://enatega.com/ai-in-the-food-industry/>
16. キリンホールディングス、生成 AI 活用プロジェクト「BuddyAI」始動 マーケティング領域で先行導入, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://markezine.jp/article/detail/47583>
17. The Impact of AI in the Food & Beverage Industry: Why Infor's Solutions Matter, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.fb101.com/the-impact-of-ai-in-the-food-beverage-industry-why-infors-solutions-matter/>
18. News | SyntheticGestalt、アサヒクオリティードイノベーションズ、東京科学大学が AI 活用で次世代 PET ボトル分解技術を共同開発, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.syntheticgestalt.com/ja/news/2024-AQI-ScienceTokyo-ja>
19. Five Trends in AI and Data Science for 2025 - MIT Sloan Management Review, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://sloanreview.mit.edu/article/five-trends-in-ai-and-data-science-for-2025/>
20. Top 10 GenAI Trends to Watch in Technology 2025 and Beyond, 3月 11, 2025 にアクセス、 <https://www.ciklum.com/resources/blog/top-10-genai-trends-2025>